

お名前（ 日比野桃子 ）

滞在先（ 陸前高田 ）

習った芸能（ 上の坊の田植え踊り、生出神楽、石橋鎧剣舞、金津流浦浜獅子躍、赤澤鎧剣舞、  
永浜鹿踊り、白銀四頭権現神楽 ）

### 1) 三陸の芸能を習ってみていかがでしたか？

団体によって雰囲気や教え方、芸能に対する考え方にも特色があるのが面白かったです。一つの団体に単発で習いに行くことがあったとしても、このレジデンスのように短期間で複数の団体を見られる機会はあまりないと思うので、良い経験でした。せっかく数名のアーティストが参加していたので、各々が集中的に習った団体のことなどを情報交換するような場があればそれぞれのクリエイションにとっても良かったかもしれません。

ただ、やはり習う期間が一日や二日だと、どうしても形をなぞるだけになってしまいます。「形をなぞる」ということにフォーカスする、より多くの芸能をめぐる旅、という



金津流浦浜獅子躍を習う（左手前）

ようなテーマでの制作ももちろんあり得ると思いますが、例えば二週間みっちり一つの芸能を修行するなど、時間をかけて身体を浸し対話を重ねたところから生まれる表現もあると思います。



八戸市の商店街で門付けを行った様子

2) 今回三陸に滞在してみていかがでしたか？良かった点、困った点をお聞かせください。

(移動や食事、宿泊、練習場所など)

陸前高田(越戸家)は、私たちがただよそ者として受け入れるのではなく、生活者の一員として扱ってくれました。そのため、芸能の本質であろう「その土地に暮らす」ということをしっかり行いながら滞在できたのが私にとってはとても良かったです。また、自分の普段の活動や作品についての対話を家に集まる皆さんとできたことがとても励みになりました。

ただ、やはり越戸家の暮らしにそのまま混入する形だったので、生活スタイルはそれに合わせる形になります(毎晩の飲み会など)。

私は性格的にも体質的にも、作家としてのスタイル的にもたまたまその形に合ったので良かったです、一



上の坊の田植え踊りの方々から話を聴いている(左手前)

般的に「アーティストインレジデンス」という言葉から想像される制作環境とは違うものだと思うので、今後そのような形で公募を行う場合、それをどのように説明するのかということは考えた方が良いと思います。あと家に集まる人たちが順番に風邪をひきはじめたのにはハラハラしました。練習場所に関しては、集落の公民館を貸していただけありがたかったです。

3) 今回の三陸でのAIRは、ご自身のアーティスト活動において、どのような影響、意味があると思いましたか？

「地域でこんな風に暮らしている人たちがいるんだ!」という発見が、アーティスト活動に限らず、今後自分がどう生きていくかということを考えるための良き経験になりました。映像作品として、旅の記録映像、パフォーマンス映像、映像人類学?的映像、といった領域横断的な試みができたとはい私の作家活動としてとても意味があると思います(実はまだぼちぼち作ってます)。

4) 今後も三陸の郷土芸能を習いたい、通いたいと思われたときに、AIR以外にどのような方法や制度があると良いと思われますか？

私は高田の皆さんとのネットワークをいただけたので、今後もお互いに面白いことをやっていけたらいいなと思っています（実際にレジデンス以降も数回遊びに行きました）。

AIRの仕組みはアーティストとしても大変ありがたく、ぜひ続いて欲しいなと個人的に思います。

一方で、アーティストとしては、間に誰かが入らず、自らの行動と直感で興味の対象を探し自分でアプローチして飛び込む、という方法が、表現を生むうえでは最も有効なのだろうなとも思います。

5) 上記以外にご意見やご感想がございましたら、自由にお書きください。

貴重な機会を本当にありがとうございました。



## 地域の伝統を発信

大船渡市郷土芸能協会 研修生受け入れ体験会

大船渡市郷土芸能協会（平山徹会長）活性化事業実行委員会主催の「大船渡芸能まるごと体験館」は29日、市内で始まった。31日までの3日間、市内の芸能団体が郷土芸能を体験する場を設けて県内外から研修生を受け入れ、地域の伝統を発信する。

大船渡の郷土芸能を「見る・聞く・習う」場にと、文化庁の文化芸術振興費補助金を受け、平成20年から開催されている。研修生が真剣な表情で稽古に臨んだ（電子新聞に動画、別写真あり）

大船渡市の赤澤地区公民館で行われた。26日に開幕した三陸国際芸術祭に参加しているダンスの長谷川暢さん（35） 東京都、酒井直之さん（29） 同、山崎真結さん（27） 同、秋田公立美術大学大学院の日比野桃子さん（1年）の4人に加え、三陸国際芸術推進委員会事務局の葛谷誠さん（47） 大船渡町、ダンサー・振り付け師の小山祐香さん（29） 東京都の計6人が研修生として参加しているもの。今年3日間で市内の計5団体が体験者を受け入れている。

初日は、大船渡町の赤澤地区公民館で行われた。26日に開幕した三陸国際芸術祭に参加しているダンスの長谷川暢さん（35） 東京都、酒井直之さん（29） 同、山崎真結さん（27） 同、秋田公立美術大学大学院の日比野桃子さん（1年）の4人に加え、三陸国際芸術推進委員会事務局の葛谷誠さん（47） 大船渡町、ダンサー・振り付け師の小山祐香さん（29） 東京都の計6人が研修生として参加した。

東海新報 2019年10月31日号に掲載

三陸国際芸術推進委員会事務局